

しっぽ通信

9月1日は「防災の日」。自然災害の多い昨今、ペットの防災で飼い主として出来ることを考えてみましょう！

ペットの災害時対応を考える！

地震・豪雨・噴火などなど大規模災害の多い近年、万が一自分が被災してしまった場合、ペットとの避難生活で困らないためにも普段からできることは何か考えてみましょう。

既に皆さんのお家には避難セットや備蓄用飲料水・保存食などが準備されているかとは思いますが、その中にはペット用の物も入っていますか？避難生活を送る場合、ペット用の支援物資はなかなか入ってこない可能性があります。そのため、ペット用の避難物資は各家庭で十分な量を準備してください。また、常用しているお薬や療法食なども多めに準備しておきましょう。

次に、避難所ではケージの中での生活が主になります。普段からケージに慣らしておきましょう。具体的にはケージの中で落ち着いて寝食できるのが望ましいです。

トイレの問題もあります。犬はペットシート、猫は段ボール箱にゴミ袋などをかぶせた簡易トイレにペットシートや

猫砂の代用として紙切れを利用したような場所でも普段通りに排泄できるように練習しておきましょう。

普段から災害時を想定し慣らしておくのが重要

いざ避難という時にペットを速やかに捕獲できますか？普段から名前を呼ばれたら飼い主の元に駆け寄ってくるように教えておく必要があります。もしくは、合図によって自ら速やかにキャリーバッグの中や洗濯ネットの中に入る練習なども効果的でしょう。

大型犬など自身の足で歩いて非難するような子の場合は、できれば靴を履かせてください。被害の状況にもよりますが、瓦礫やガラス片などが道に散乱しているかもしれません。切り傷などを放置すると後々大きな問題になる可能性があります。また災害時の混乱の中すぐに治療を施せないこともあります。極力怪我をさせないことが重要です。

猫や小型犬など、キャリー

バッグに入る大きさの子は自立するキャリーバッグを用意しておきましょう。避難所が整うまで、持参のキャリーバッグでの生活が数日必要になるかもしれません。大型犬などは繋留で過ごすこともあるかもしれません。丈夫な首輪を着け、リードは数本準備しておくといいでしょう。

また、ペットと同行避難ができる避難所や道順もあらかじめ調べておきましょう。

ペットの身元がわかるよう準備をする

万が一ペットとはぐれた時を想定し、マイクロチップと名札、犬は狂犬病鑑札を装備しておきましょう。また、ペットの写真やペットの特徴などが記されたメモを非難袋へ入れておきましょう。



ペット非常用品チェックシート

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 水・フード | <input type="checkbox"/> サララップなど |
| <input type="checkbox"/> 食器(紙皿やシリコン製の食器など) | <input type="checkbox"/> リード(数本)・首輪や胴輪 |
| <input type="checkbox"/> 常備薬 | <input type="checkbox"/> キャリーバッグ |
| <input type="checkbox"/> ペットシート | <input type="checkbox"/> 洗濯ネット(猫用) |
| <input type="checkbox"/> 新聞紙 | <input type="checkbox"/> ペット用靴・靴下 |
| <input type="checkbox"/> ビニール袋・密閉袋
(ゴミ袋・ジップロックなど各サイズ) | <input type="checkbox"/> 名札や狂犬病鑑札
(名札などは紛失する可能性を考えて首輪などに縫い付ける、もしくは首輪に名前など記載) |
| <input type="checkbox"/> タオルなどの布類 | <input type="checkbox"/> ペットの写真やメモなど |
| <input type="checkbox"/> キッチンペーパーなど | |

経験を生かして

当院の院長は阪神大震災、東日本大震災にて、現地での動物医療、救護活動を行ってまいりました。

メディアなどの情報ではペットの被害状況などはなかなか入ってきません。実際に現地に行かないと知らされないことが沢山です。

現地で経験してきた多くのことを生かし、皆さんにお役に立てられればと思い、今後も起こり得る大規模災害に備えるための必要な情報提供をさせていただきます。

ご興味のある方は何でもご相談ください。

災害時 ペットの体調管理

東日本大震災の後、実際に被災していない地域のペット達も、余震や緊急地震速報のアラーム音に怯え食欲不振や下痢などの体調不良を起こしました。

おそらく心的ストレスによるものが主で、留守番中に地震に遭い、棚から物が落ちてきたり、アラーム音が響き渡ったりなど怖い経験をしてしまった子も多くいます。また飼い主と一緒に居た場合でも飼い主の動揺が伝わり、トラウマになってしまった子も多かったようです。

このように被災動物で無い子でも体調を崩すのですから、実際に被災した場合を考え、災害時に起こりやすい症状などを知っておく必要があるのではないのでしょうか。

災害時に多い症状

【下痢】

【嘔吐】

【食欲不振】

嗜好性の高いもの、栄養価の高いもの、柔らかいもの、流動食タイプなどを備えておく。

【貧血】

歯茎の粘膜や眼の粘膜の色を確認する。

【脱水】

皮膚の張り具合(皮膚をつまんですぐに元に戻るかどうか)や歯茎の乾き具合をみる。

【熱中症】

元気の様子、下痢や嘔吐、呼吸の様子など確認。

【ケガ】

切り傷・擦り傷は清潔な水で洗い流し、サランラップや布で保護する。ねんざ・骨折は患部を冷やし、極力動かさないようにする。

※これらの症状が見られたら、出来るだけ速やかに獣医師に診てもらいましょう。

持病のある子の場合はさらに予測しておかなければならない症状があるかもしれません。あらかじめかかりつけの獣医師に聞いておくのも良いでしょう。

災害時は、かかりつけの動物病院も被害に遭い、通常の業務が出来なかったり、カルテや各種検査結果などの個々の情報も見られなくなってしまうかもしれません。緊急で駆けつけた獣医師に診てもらうこととなります。そのような時に頼りになるのは飼い主からの情報になります。

普段からペットの病気のこと、治療のこと、薬のこと、各種検査結果などはメモや携帯電話の写真に残すなどして、いつでも確認できるようにしておきましょう。

ストレスは大敵

災害時は普段とは違う生活や不安などにより、個体差はあるものの心的ストレスを抱えることとなります。

心的ストレスは後々体調不良の原因となり得ます。免疫が低下するため、感染症などにかかりやすくなったり、皮膚病が発現したり、膀胱炎になったりなどなど、あらゆる病気の元です。

心的ストレスを感じると、睡眠不足に陥ったり、震えが止まらなかったり、身体の一部を舐め続ける、目的もなくウロウロと徘徊する、地面を掘り続けるなどの普段とは違う行動(異常行動)が見られることがあります。

できる限りペットの不安を取り除く工夫が必要でしょう。

例えば、ペットの寝床には飼い主が着ていたシャツなどを入れてあげる。可能な範囲でペットの側にいて話しかけてあげる。気分転換にペットの好きなことをしてあげるの

も有効でしょう。犬であれば散歩に連れ出し遊ばせる。猫であればブラッシングをあげたり、マタタビなどを与えたりするなどの気分転換は大切です。

ペットの喜んだり、落ち着いた姿を見ると飼い主もリラックスでき、相乗的にお互いのストレス軽減に繋がります。

災害は防ぐことができません。なので、想定し、備え、いかに被害を最小限にとどめられるかがとても重要なのです。

普段から家族と話し合い、またご近所にもペットの同行避難などに理解してもらい、皆が協力し合っていくことで円滑な避難および避難生活に繋がります。

避妊去勢手術で不幸な子達を減らせる

東日本大震災などの大規模な災害があると、ペット達が自宅から逃走し、保護できなくなってしまうケースが多々あります。

その子達は野良犬・野良猫化してしまい、避妊去勢手術をしていない子はどんどん子供を産みます。被災ペットの野良化だけでなく、被災ペットの2世3世がどんどん増え、のちに地域の野良犬・野良猫問題へととなり、殺処分へ、なんて不幸なことになってしまいます。

ペットの健康を維持するためにも避妊去勢手術は有効です。万が一の時に、自分のペット、そしてその子の不幸な2世3世を作り出さないように、子供を取る予定のない子は避妊去勢手術をしましょう。

今までの多くの災害を教訓とし、行政でも災害時のペットのことが考察・対策されてきています。環境省のホームページなども参考に、災害について考えていただけたら幸いです。